



新着図書紹介



四六判 240ページ  
定価 2,100円  
学芸出版社

「日本でも最も美しい村連合」という組織があるのをご存じだろうか。二〇〇五年十月にスタートした同連合は、小さくても素晴らしい地域資源を持つ村の存続や美しい景観の保護など、失ったら二度と取り戻せない農山村の景観・文化を守る活動を行っている。イタリアでは二〇〇一年に「イタリアの最も美しい村協会」が発足し、グリーンツーリズムを中心に多くの旅行者を集めてきた。本書『なぜイタリアの村は美しく元気なのか』市民のスロー志向に応えた農村の選択』（宗田好史著、学芸出版社）では、こうした田園観光振興のベースとなっているイタリアの村について、アグリツーリスト協会の誕生や地方都市におけるスローシティ運動、欧州連合（EU）による農業政策の転換など、「美しく元気な村」を支えているさまざまな事象を歴史とともに詳細に紹介している。農村と農業が大きな転換期を迎えている今、本書を通じて「日本の美しい村」の未来を思い描くこともできるに違いない。



四六判 236ページ  
定価 1,600円  
青弓社ライブラリー

寺山修司はかつて「日本の近代が路地をほとんど無用化し封鎖してしまい、道は人間中心から車中心になって、散歩という思想を切り捨ててしまった」と語ったことがある。本書『路地裏が文化を生む！／細街路とその境界の変容』（増淵敏之著、青弓社ライブラリー）では「路地、路地裏、もしくは細街路」と表現されるバックストリートを「あくまでもコミュニケーションの性格を有するもの」と定義し、東京、京阪神、札幌、広島、福岡で、その諸相を時代とともに検証する。都市開発の波によって次第に姿を消していったバックストリートこそ、日本のポップカルチャーが生成された場だったと考える著者は、本書を通じて再確認を試みている。寺山が晩年に住居侵入で略式起訴された『事件』の現場も路地裏だが、その背景には日本の社会構造の制度化や硬化もあった。寺山没後三十年の今、本書は改めて「境界線のない曖昧さ」を失ってきた社会のありようも問うている。（挑全）

利用状況

ベストリーダー（2012年12月～2013年1月）

当図書館への来館者によく閲覧されている本を紹介。

【旅行ガイドブック部門】

海外旅行では、

- ・『地球の歩き方イスタンブールとトルコの大地2012-13』（ダイヤモンド・ビッグ社）
- ・『地球の歩き方ベトナム2012-13』（ダイヤモンド・ビッグ社）
- ・『地球の歩き方ラオス2013-14』（ダイヤモンド・ビッグ社）

国内旅行では、

- ・『るるぶ日光 那須 鬼怒川 塩原2013』（JTBパブリッシング）

【一般読み物部門】

- ・『JTBグループ100年史 1912～2012』（ジェイティービー）
- ・『徹底調査！ 本当に安い、本当に快適！ 使えるエアライン』（宝島社）
- ・『マレーシアで暮らしたい！ マレーシア「ロングステイ」公式ガイドブック』（山田美鈴著、講談社）

館長のつぶやき

日本で最も長く続いた旅行雑誌『旅』の1974年以降のデジタル化を検討している。1924年からの50年分はすでに完了しており、残りの30年分についてである。デジタル化の利点は、省スペース、貴重な本を傷めず閲覧、そして検索可能であることだろう。ばらばらめくるのも本の楽しみだが、キーワードから情報を探し出すには検索のかかるデジタルに分がある。とはいえ、デジタルも、ソフト・ハードの変更等により再作成が必要となれば、結局一番大事なのは紙の本そのもの、ということにかえてくる。

特別展示のご案内

観光学を考える

2013年4月1日(月)～2013年5月31日(金)

観光に関する学、すなわち「観光学」を発展させることは、わが国の観光研究の重要な課題といわれている。しかし、今日までに多数の観光研究の成果が蓄積されてきているものの、①研究対象である「観光」が学際的なアプローチ（地理学・社会学・経済学等）を許容する総合的現象であること、②わが国の観光学が比較的新しい学問分野であること、③観光の原論（principles）および理論（theories）に関する研究が途上にあること等の理由から、いまだなお、観光学は学問体系として確立されるには至っていない。

近年、観光は、国家・地域レベルの重点政策の一つとして取り上げられ、それと同時に、観光学部・観光学科を有する大学も全国に多数設置されるようになってきた。観光を通じた豊かな国づくり・地域づくりを担う人材の育成を図る上で、その基礎となるべき「観光学」を確立していくことの重要性はこれまで以上に高まっているといえるだろう。

そこで本展では、「観光学を考える」をキーワードに、国内外の観光学の原論および理論を扱う図書および研究論文等、観光学を考える上でのさまざまな資料を展示します。ぜひ多くの方が当館を訪れ、わが国の観光学のあり方について考える機会にさせていただきたいと思えます。

\*詳細は、ホームページ<http://www.jtb.or.jp/>へ。旅の図書館特別展示で検索